

「危機管理会議2015」会議総括

「危機管理ネットワーク」は、参加する都市間の危機管理に関するノウハウの共有と蓄積を進め、危機管理体制の強化に結びつけることを目的に、「危機管理会議2015」を開催した。

東京都の主催により、この会議の本会議が、2015年10月13日、北京、クアラルンプール、ロンドン、マニラ、ニュー・サウス・ウェールズ州、ソウル、シンガポール、台北及び東京の参加のもと行われた。

ここに我々は、次のように会議を総括する。

1. 危機管理ネットワークは、2003年の発足以来、アジア大都市ネットワーク(ANMC21)参加都市により運営されてきたが、参加全都市の合意により、2015年4月から、新たな枠組により事業を継続することとなった。今年の会議には、従来のネットワーク参加都市からの出席に加え、北京、ロンドン、ニュー・サウス・ウェールズ州からも参加を得た。
2. 近年、地球規模の気候変動に伴い、風水害や地震等の自然災害は極大化する傾向にある。アジアの大都市は目覚ましい発展を遂げつつある一方で、これら様々な危機に直面している。
また、大規模事故やテロといった危機は、アジア以外にも共通する普遍的な課題であり、世界の各都市と情報共有を強化することが必要である。
3. 本会議において、我々は、「災害被害を最小化するための万全の備え～すべての人の生命と生活を守る」をテーマに議論を行った。
各都市からは、災害に備えるためには、過去の経験から学び、総合的かつ具体的な防災計画を策定することの重要性について報告がなされた。また、子供、高齢者、外国人をはじめ、多様な住民に等しく知識や情報を伝達し、参画を促す取組が必要であること、さらに行政の取組のみならず、市民が主体的に防災意識を高め行動することが重要であるという報告がなされ、具体的な啓発の手法についての意見交換と情報共有を図った。
4. 我々を取り巻くさまざまな危機、とりわけ自然災害の発生をなくすことはできない。しかし、来たるべき危機に備え、考え得る万全の備えをすることにより、我々は市民を守り、被害を最小限にとどめるための努力を続けていく。このため、今後とも、我々は危機管理ネットワークの枠組を踏まえ、情報共有や人材育成をはじめとする相互連携を深め、各都市の危機管理体制の強化をはかることを確認した。

5. 次回の危機管理会議は、2016年の適切な時期に、シンガポールにおいて開催することを決定した。

2015 年 10 月 13 日
東京にて